

# 川曲地蔵前遺跡 No.4

認定こども園建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2016.6

前橋市教育委員会  
学校法人中村学園社  
技研コンサル株式会社

# 川曲地蔵前遺跡 No.4

認定こども園建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2016.6

前橋市教育委員会  
学校法人中村学園  
技研コンサル株式会社



調査区 全景 (南から)



調査区 全景 (真上、西から)



本道跡周辺の空中写真（国土地理院所有 CKT20111-C7-22 平成23年撮影 上が北）

## 例 言

- 1 本報告書は認定こども園建設に伴う埋蔵文化財発掘報告書である。
- 2 発掘調査の要項は次のとおりである。

遺跡名	川曲地蔵前遺跡 No.4
調査場所	前橋市川曲町字地蔵前 529-1、530-1、531-1
遺跡コード	27A219
発掘・整理担当者	岡野 茂（技研コンサル株式会社）
発掘調査期間	平成 28 年 1 月 5 日～平成 28 年 1 月 29 日
整理・報告書作成期間	平成 28 年 2 月 1 日～平成 28 年 6 月 30 日

- 3 本書の原稿執筆は I を藤坂和延（前橋市教育委員会）、その他については岡野が担当した。
- 4 発掘調査、及び整理作業参加者は次のとおりである。

飯島冬子 太田英明 小川弘之 萩原一行 加藤千恵子 菊田武明 北爪二郎 小島京子 今野妙子  
塩野 浩 杉田友香 関口孝之 田島君代 田部井美砂子 土屋和美 中野光雄 萩原 誠 畠山勝利  
福島祿子 星野 博 星野正也 松本徳雄 矢島昭司 山崎知晴 吉澤克夫

- 5 本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。
- 6 下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。（順不同、敬称略）  
植崎修一郎 株式会社大信工業 山下工業株式会社

## 凡 例

- 1 挿図中に使用した北は座標北である。
- 2 挿図に国土地理院発行 1/200,000「宇都宮」「長野」、1/25,000「前橋」、前橋市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。
- 3 遺構名称は、溝：W である。
- 4 遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。  
溝・・・1/200 全体図・・・1/400
- 5 本文および表中の計測値については（ ）は現在値を表す。
- 6 主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。  
As-B（浅間 B 軽石：1108）、Hr-FP（榛名二ヶ岳伊香保テフラ：6 世紀中葉）、  
Hr-FA（榛名二ヶ岳渋川テフラ：6 世紀初頭）、As-C（浅間 C 軽石：3 世紀後葉～4 世紀前半）

# 目次

口絵1

口絵2

例言・凡例

目次

I	調査に至る経緯	1
II	遺跡の立地と環境	2
III	調査の方針と経過	
1	調査範囲と基本方針	8
2	調査経過	8
IV	基本層序	9
V	検出された遺構	
1	遺跡の概要	11
2	近世以降	11
3	平安時代末期	11
VI	まとめ	19

## 挿図目次

第1図	遺跡位置図	1
第2図	前橋の地形	2
第3図	周辺遺跡地図	4
第4図	調査区位置図	8
第5図	基本層序	9
第6図	調査区全体図	10
第7図	As-B軽石下水田全体図(1)	13
第8図	As-B軽石下水田全体図(2)	14
第9図	As-B軽石下水田全体図(3)	15
第10図	畦畔1～19、W-1・2セクション図、As-B下水田横断面	16
第11図	足跡A群	17
第12図	足跡B群	18
第13図	釜屋模式図	19
第14図	川曲周辺遺跡と字地の配置図	20
第15図	迅速測量図	21
第16図	戦後の空中写真	22
第17図	常歩の行跡	23
第18図	ひょうたん型の足跡が出来る過程の推定	23

## 表目次

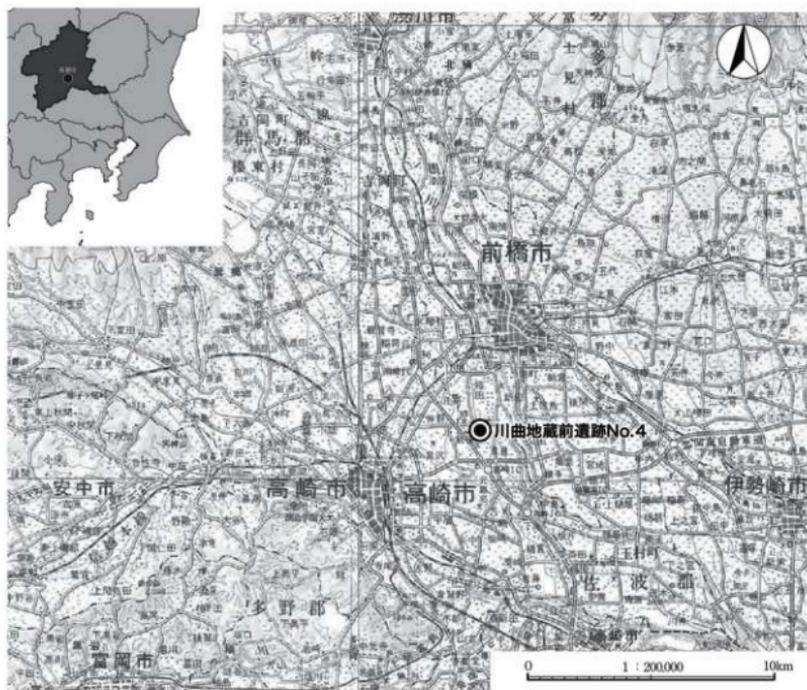
第1表	周辺遺跡一覧表	5
第2表	As-B軽石下水田計測表	12

## 写真図版目次

PL.1	川曲地蔵前遺跡N.O.4から榎名山を望む 表土掘削(西から) 畦畔セクション1(北西から) 畦畔セクション2(北西から) 畦畔セクション3(西から)
PL.2	畦畔セクション4(北から) 畦畔セクション5(西から) 畦畔セクション6(北西から) 畦畔セクション7(西から) 畦畔セクション8(西から) 畦畔セクション9(東から) 畦畔セクション10(西から) 畦畔セクション11(東から)
PL.3	畦畔セクション12(東から) 畦畔セクション13(南西から) 畦畔セクション14(北西から) 畦畔セクション15(西から) 畦畔セクション16(西から) 畦畔セクション17(東から) 畦畔セクション18(西から) 畦畔セクション19(北から)
PL.4	足跡A群 遠景(東から) 足跡A群 近景(東から) 足跡A群 Aセクション(南西から) 足跡A群 Bセクション(南西から)
PL.5	足跡B群 遠景(南東から) 足跡B群 近景(南西から) 足跡B群 Cセクション(南西から) W-1 全景(東から) W-1セクション(西から) 作業風景(足跡A群検出)
PL.6	基本層序1(北から) 基本層序2(東から) 基本層序3(南から) 作業風景(水田面8・10)

## I 調査に至る経緯

平成27年10月14日、開発人である学校法人中村学園理事長 中村有香より当該地で認定ことも園建設計画に伴い、当該地の「埋蔵文化財事前調査依頼書」が提出される。教育委員会では、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「前橋市0333遺跡」であり、開発にあたっては、文化財保護法第93条第1項の届出が必要であり、その際に提出される工事の内容を確認して、その取扱いについて協議したいと回答する。10月20日、開発人からの文化財保護法第93条第1項の届出により工事の概要が提示される。教育委員会では、提出された工事の内容からは遺跡の保存に及ぼす影響が大きいことが予想されることから、発掘調査の実施を踏まえ、試掘・確認調査を実施したいと回答する。10月28日、開発人から「埋蔵文化財試掘調査依頼書」が提出され、11月5日、教育委員会は試掘・確認調査を実施、平安時代末の水田跡を確認する。教育委員会は、遺跡の取扱いについての協議の結果、発掘調査を実施し記録保存の措置を執ることで開発人の合意を得た。教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することになり、平成27年12月22日付けで開発人と民間調査組織である技研コンサル株式会社の間で発掘調査・整理業務委託の契約を締結されるとともに、開発人・技研コンサル株式会社・教育委員会との間で三社協定が締結され、平成28年1月5日から現地調査が開始された。



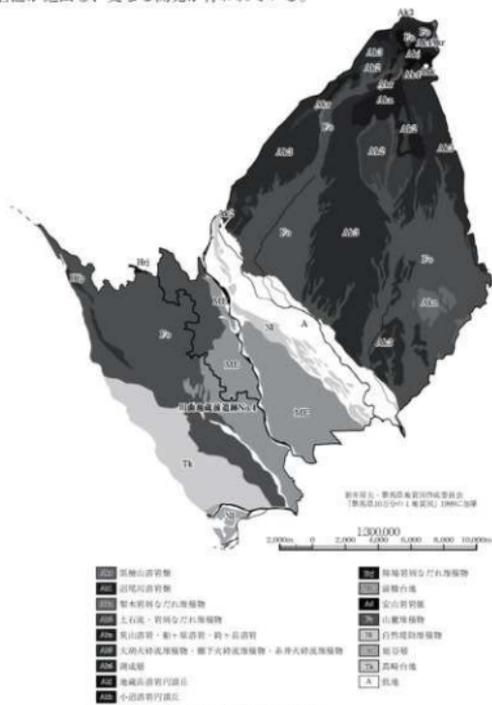
第1図 遺跡位置図

## II 遺跡の立地と環境

### 地理的環境

川曲地蔵前遺跡 No. 4 は前橋市街地の南西にあり、JR 新前橋駅の南南東へ約 3 km に位置し、前橋市川曲町字地蔵前 529 番地 1 他に所在する。本遺跡の標高は約 92 m であり、北から南へ緩やかな傾斜をもっている。隣接する新前橋駅川曲線は、関越自動車道と結ぶ高崎・駒形線に接続する新設の幹線道路で、沿線は学校施設が多く、近年では住宅地の拡大、介護施設や大型店舗が進出し、更なる開発が行われている。

本遺跡は前橋台地の中央やや北寄りに位置する。前橋台地は洪積期後半の約 24,000 年前に浅間山を構成する黒斑山の大規模噴火に伴う山体崩壊により発生した岩屑なだれが吾妻川を流れ出て前橋泥流として堆積、それを被覆する水成堆積層から成る洪積台地である。北西は榛名山麓東南域に広がる相馬ヶ原扇状地の端部に接し、榛名山の中腹に水源をもつ井野川・染谷川・滝川等の中小河川が南流する。南西は河岸段丘に画された井野川低地帯が広がる。この河岸段丘の上位面は障場岩屑なだれに対比されている井野川泥流堆積物で形成されている。北東は複合成層火山である赤城山の南麓に広がる南北に長い沖積地と大胡火砕流堆積面上の丘陵性の大地が交互に入り組む複雑な地形となっており、前橋台地との境は幅 3～4 km、長さ 13 km にわたる古利根川氾濫原である広瀬川低地帯によって隔絶されている。なお、利根川は天文年間（16 世紀中頃）に洪水もしくは人為的に変流されたと考えられている。



### 歴史的環境

**縄文時代** 本遺跡周辺での縄文時代遺跡は少ないが、井野川と染谷川の合流地点から井野川南域の河岸段丘上に分布している。山鳥・天神遺跡（81）で前期、矢島町村西・増殿遺跡（76）で中期、万相寺遺跡（83）で後期の集落が確認されている。利根川右岸ではまともな形で遺構や遺物の出土例は現在のところ知られていないが、土器片や石器の出土が広範囲で分布することから、小規模な集落が点在していた可能性が考えられる。

**弥生時代** 本遺跡周辺では染谷川流域に分布している。上流から日高遺跡（89）、新保田中村前遺跡（86）、新保遺跡（85）、新保町遺跡（84）、西島相ノ沢遺跡（73）で確認されている。また、井野川南域の河岸段丘上では北宅地遺跡（77）、元高名遺跡（58）、鈴ノ宮遺跡（60）、万相寺遺跡、利根川左岸の橋島川端遺跡（34）で

確認されている。いずれも、弥生時代中期から後期を始まりとし、古墳時代前期まで継続して営まれる集落である。西島相ノ沢遺跡では弥生時代後期の環濠集落が発見されている。

墓域は鵜島川端遺跡、公田東遺跡、鈴ノ宮遺跡、北宅地遺跡、新保遺跡、新保田中村前遺跡、日高遺跡で周溝墓や再葬墓が集落に近い場所から発見されている。公田東遺跡の調査では鶏形土製品が出土している。

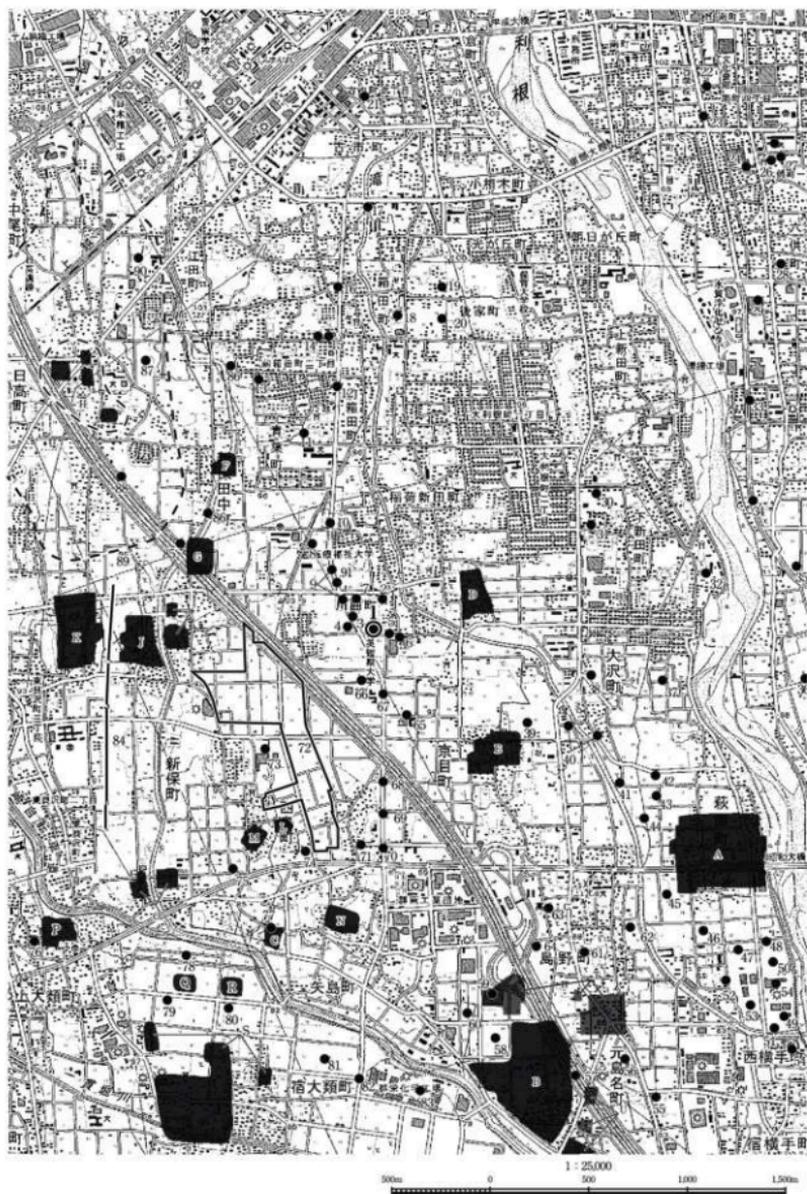
生産域では3世紀後半～4世紀前半に降下したと考えられるAs-C軽石で埋没した水田跡が日高遺跡、新保田中村前遺跡、新保遺跡、鵜島川端遺跡で発見されている。また、新保遺跡、新保田中村前遺跡の発掘調査では旧河川跡から農耕具を含む木製品が多量に出土している。

**古墳時代** 前期の遺跡は、弥生時代から継続する集落が多く、新たに営まれる集落は利根川左岸崖上の微高地に分布し、南町市之坪遺跡(22)、生川遺跡(23)、六供遺跡群No.5(24)、六供中京安寺遺跡(28)、鵜島川端Ⅱ遺跡(33)で確認されている。また、低地帯の集落ではS字堯を主体とする周溝状遺構が検出されており、周溝墓と違い主体部がなく、出土遺物は葬送に伴うものではなく一般住居跡と同様な構成のため、調査事例として萩原・沖中遺跡8(53)、横手早稲田遺跡や南部拠点遺跡群等が上げられる。中期の遺跡は少なく、集落は六供遺跡群No.5、西島相ノ沢遺跡で確認されている。西島相ノ沢遺跡では28軒の住居跡が調査されている。後期に入ると弥生時代から継続して営まされた集落は減少し、前期から始まる集落は継続する傾向が見られる。また、微高地や自然堤防上には新たに小規模な集落が営まれる。継続して営まれる集落は南町市之坪遺跡、生川遺跡、六供遺跡群No.5・6(25)で確認され、新たに営まれる集落は下新田遺跡(32)、六供遺跡群No.7(26)・8(27)で確認されている。

生産域は6世紀初頭に降下したHr-FAや6世紀中葉に降下したと考えられるHr-FP、これらの火山灰堆積物を主体とする洪水層で埋没した水田跡が各地で検出され、染谷川流域では日高遺跡、新保田中村前遺跡、新保遺跡、滝川流域では萩原団地遺跡(37)から萩原・沖中遺跡(52)以南へと続き、広く分布している。利根川左岸では鵜島川端遺跡、公田東遺跡(35)が確認されている。なお、これらの遺跡で検出された水田は小区画で区切られている。

墓域は六供中京安寺遺跡、鵜島川端遺跡、公田東遺跡、鈴ノ宮遺跡、北宅地遺跡、新保遺跡、新保田中村前遺跡で周溝墓が確認されている。集落同様に弥生時代から継続している遺跡に多くみられる。また、井野川左岸に県下最古の古墳として位置づけられている全長90mの元島名将軍塚古墳が造営された。

**奈良・平安時代** 前橋市元総社町付近には国府が造営され、前橋台地上は条里地割に基づく大規模な耕地開発が行われた。条里地割の施工時期については不明な点も多いが、前橋台地の北東側、広瀬川低地帯にある中原遺跡の調査では、『類聚国史』に記されている弘仁9年(818)に起きた地震に起因する泥流堆積物直下から、条里地割を伴う水田跡が確認されている。砂町遺跡ではAs-B軽石下水田耕作土下から条里地割を踏襲すると考えられる東西大畦畔が検出されており、大畦畔成立時期は構築土から出土した土器や同遺跡内の東山道と想定される道路状遺構が廃絶後に水田が形成されていることから8世紀後半と考えられている。また、西田遺跡では9世紀後半代の竅穴住居跡を切って条里地割を伴う水田跡が検出している。これらの調査事例から遅くとも9世紀代には水田開発が行われたと考えられる。天仁元年(1108)の浅間山の噴火は『中右記』に記録されており、この噴火は群馬県内に大量の軽石を降らせ、田畑を埋没させ、大きな被害を与えた。この降下した軽石は浅間B軽石(As-B軽石)と呼ばれている。このAs-B軽石層に覆われた水田跡は、本遺跡周辺においても広い範囲で検出されている。この時期の集落遺跡は前時代と同様に自然堤防等の微高地上に分布し、南町市之坪遺跡、生川遺跡、六供中京安寺遺跡、公田東遺跡、鈴ノ宮遺跡、西島相ノ沢遺跡、矢島町村西・増殿遺跡、天田・川押遺跡(78)、天田Ⅱ遺跡(79)、天神久保遺跡(82)、新保田中村前遺跡、新保遺跡、新保町遺跡等が確認される。また、8世紀後半から9世紀にかけて前橋台地内部では集落が減少する傾向がみられるが、10世紀以降から再び確認することができる。



第3圖 周辺道跡地図

第1表 周辺遺跡一覧表

No	遺跡名	水田			時代：主要遺構、出土遺物	報告書、参考文献
		C	FA	B		
1	川曲地蔵前遺跡 No. 4			○	近世：溝	本報告書
2	地蔵前遺跡			○		『地蔵前遺跡』前橋市教育委員会・前橋市歴史文化財発掘調査団 1988
3	川曲地蔵前遺跡Ⅱ			○		『川曲地蔵前Ⅱ遺跡』前橋市歴史文化財発掘調査団 2005
4	川曲地蔵前遺跡 No. 3			○		『川曲地蔵前遺跡 No. 3』前橋市教育委員会 2015
5	川曲龍沙門前遺跡			○		『川曲龍沙門前遺跡』前橋市歴史文化財発掘調査団 1988
6	川曲龍沙門前Ⅱ遺跡			○		『川曲龍沙門前Ⅱ遺跡』前橋市歴史文化財発掘調査団 2005
7	川曲阿弥陀西遺跡 No. 2			○		『川曲阿弥陀西遺跡 No. 2』前橋市教育委員会 2013
8	川曲鳥野遺跡			○		『川曲鳥野遺跡』前橋市歴史文化財発掘調査団 2005
9	川曲柳橋Ⅱ遺跡			○		『川曲柳橋Ⅱ』遺跡』前橋市歴史文化財発掘調査団 2005
10	柳橋遺跡			○		『柳橋遺跡』前橋市歴史文化財発掘調査団 1994
11	前箱田遺跡			○		『前箱田遺跡』前橋市教育委員会 1983
12	稲荷遺跡			○		『稲荷遺跡』前橋市歴史文化財発掘調査団 1997
13	箱田地遺跡			○		『箱田地遺跡』前橋市教育委員会・前橋市歴史文化財発掘調査団 1985
14	前箱田村西Ⅱ遺跡			○	中世：溝	『前箱田村西Ⅱ遺跡』前橋市歴史文化財発掘調査団 2000
15	前箱田村西Ⅲ遺跡			○	中世：溝	『前箱田村西Ⅲ遺跡』前橋市教育委員会 2013
16	前箱田川西遺跡	○		○		『前箱田川西遺跡』前橋市教育委員会 1999
17	箱田古市前Ⅰ・Ⅱ遺跡		○		古墳：平土筑遺構、平安：住居跡、中・近世：溝	『箱田古市前Ⅰ・Ⅱ遺跡』群馬県歴史文化財調査事業団 1995
18	村前遺跡	○		○		『村前遺跡』前橋市教育委員会・前橋市歴史文化財発掘調査団 1987
19	五反田Ⅱ遺跡					『五反田Ⅱ遺跡』前橋市歴史文化財発掘調査団 1995
20	五反田遺跡			○		『五反田遺跡』前橋市教育委員会・前橋市歴史文化財発掘調査団 1967
21	本島遺跡				古墳：前期住居	『本島遺跡』前橋市教育委員会 1985
22	南町市之坪遺跡				古墳：前・後期住居跡、奈良・平安：住居跡	『南町市之坪遺跡』前橋市教育委員会 2008
23	牛久遺跡				古墳：前・後期住居跡、奈良・平安：住居跡	『牛久遺跡』前橋市歴史文化財発掘調査団 1988
24	六供遺跡群 No. 5				古墳：前・後期住居跡	『六供遺跡群 No. 5』前橋市教育委員会 2009
25	六供遺跡群 No. 6				古墳：後期住居跡	『六供遺跡群 No. 6』前橋市教育委員会 2009
26	六供遺跡群 No. 7				古墳：後期住居跡	『六供遺跡群 No. 7』前橋市教育委員会 2013
27	六供遺跡群 No. 8				古墳：後期住居跡、近世：溝	『六供遺跡群 No. 8』前橋市教育委員会 2014
28	六供中京家遺跡			○	古墳：前期住居跡・古墳、堀溝群、奈良・平安：住居・道路跡遺構	『六供中京家門遺跡、六供下堂木遺跡』前橋市歴史文化財発掘調査団 1988
29	中大門遺跡			○		『中大門遺跡』前橋市教育委員会 1983
30	下新田中沖遺跡					『下新田中沖遺跡』前橋市歴史文化財発掘調査団 1998
31	下新田中沖Ⅱ遺跡			○		『下新田中沖Ⅱ遺跡』前橋市歴史文化財発掘調査団 1998
32	下新田遺跡				古墳：後期住居跡、近世：櫓前扉	『下新田遺跡』前橋市歴史文化財発掘調査団 1979
33	柳島川Ⅱ遺跡				古墳：前期住居跡	『柳島川Ⅱ遺跡』前橋市歴史文化財発掘調査団 1998
34	柳島川Ⅲ遺跡	○	○	○	後生：住居跡、西葬基、古墳：住居跡、掘立柱建物跡、方形堀溝基、埴輪跡、遺物集中	『柳島川Ⅲ遺跡』群馬県歴史文化財調査事業団 1996
35	会田東遺跡（事業団）		○	○	古墳：方形堀溝基、古代：住居跡、掘立柱建物跡、中世：居館跡遺構、島・舟口、近世：島、溝	『柳島川Ⅲ遺跡、会田東遺跡、会田西遺跡』群馬県歴史文化財調査事業団 1997
36	会田東遺跡（調査団）				中世：環溝	『会田東遺跡』群馬県学芸調査委員会 1996
37	萩原団地遺跡	○	○	○	近世：竪坑遺構・溝	『萩原団地遺跡』高崎市遺跡調査会発掘調査団 1993
38	大沢遺跡			○		『大沢遺跡』高崎市遺跡調査会発掘調査団 1997
39	宮目久保・天神前・柳ノ内・上小路遺跡		○	○	中世：堀・溝	『宮目久保、天神前、柳ノ内、上小路遺跡』高崎市教育委員会 2000
40	宮目杉ノ内・大沢大沢西遺跡			○		『宮目杉ノ内、大沢大沢西遺跡』高崎市教育委員会 1999
41	萩原・宮目塊遺跡				平安：住居跡	『萩原、宮目塊遺跡』高崎市教育委員会 2010
42	萩原上五丁目遺跡		○	○	古墳：溝	『萩原上五丁目遺跡』県史処理区萩原遺跡調査会 2001
43	萩原上五丁目遺跡		○	○		『萩原上五丁目遺跡』県史処理区萩原遺跡調査会 1999
44	萩原八幡西・萩原上五丁目Ⅱ、下五丁目遺跡		○	○	古代：溝、中世：道路跡遺構	『萩原八幡西、萩原上五丁目Ⅱ、下五丁目遺跡』高崎市教育委員会 2003
45	萩原八幡東遺跡		○			『高崎市西遺跡群歴史文化財緊急発掘調査報告 17』高崎市教育委員会 2003

No	遺跡名	水田			時代・主な遺構・出土遺物	報告書・参考文献
		C	FA	B		
46	萩原沖中遺跡		○	○	近世：溝	『萩原沖中遺跡Ⅱ』高崎市教育委員会 2007
47	萩原・沖中遺跡6		○	○		『萩原・沖中遺跡6』高崎市教育委員会 2009
48	萩原・沖中遺跡7		○	○	古墳：溝	『萩原・沖中遺跡7 西瀬子・西免遺跡4 西瀬子・西免遺跡5』高崎市教育委員会 2013
49	西瀬子・西免遺跡4、5		○	○	近世：堀	
50	萩原沖中遺跡第3次調査		○	○	古墳：土坑、ピット、溝	『萩原沖中遺跡第3次調査』2009 高崎市教育委員会
51	萩原沖中遺跡5		○	○		『萩原沖中遺跡5』高崎市教育委員会 2009
52	萩原沖中遺跡		○	○	近世：溝	『萩原沖中遺跡』高崎市教育委員会 2005
53	萩原・沖中遺跡8		○	○	古墳：堀溝状遺構	『萩原・沖中遺跡8』高崎市教育委員会 2015
54	西瀬子遺跡群1・Ⅱ		○	○	古墳：堀溝基、水路跡、中世：竪坑遺構、近世：塀遺構	『西瀬子遺跡群1』『西瀬子遺跡群Ⅱ』高崎市教育委員会 1989/90
55	高野小町遺跡		○	○		『高野市内六遺跡群蔵文化財発掘調査報告Ⅱ』高崎市教育委員会 1992
56	元島名諏訪北遺跡			○		『高野市内六遺跡群蔵文化財発掘調査報告Ⅱ』高崎市教育委員会 1992
57	元島名北遺跡			○	中世：元島名堀の堀、溝	『元島名北、吹架遺跡』群馬県蔵文化財調査事業団 1982
58	元島名遺跡			○	縄文：土坑、弥生：住居跡、古墳：前期住居跡、中世：竪立建物跡、舟跡	『元島名遺跡』高崎市教育委員会 1979
59	元島名中子遺跡			○		『高野市内六遺跡群蔵文化財発掘調査報告Ⅱ』高崎市教育委員会 1990
60	除ノ宮遺跡			○	弥生：住居跡、堀溝基、古墳：住居跡、堀溝基、古墳：住居跡、奈良：平安：住居跡	『除ノ宮遺跡』高崎市教育委員会 1978
61	高野村西遺跡		○	○		『高野市内六遺跡群蔵文化財発掘調査報告Ⅱ』高崎市教育委員会 2000
62	高野村東遺跡			○		『高野村東遺跡』高崎市教育委員会 1988
63	高野神明遺跡			○	古代：A+B下品	『高野市内六遺跡群蔵文化財発掘調査報告Ⅱ』高崎市教育委員会 1992
64	高野四辻遺跡			○		『新保田西目遺跡、高野四辻遺跡、第17回埋蔵文化財発掘調査報告Ⅱ』高崎市教育委員会 2000
65	京日不動宮遺跡			○		『高野市内六遺跡群蔵文化財発掘調査報告Ⅱ』高野市遺跡調査会調査団 1993
66	京日作道遺跡			○		『京日作道遺跡』高野市遺跡調査会調査団 1986
67	京日作道Ⅱ遺跡			○		『京日作道Ⅱ遺跡』高崎市教育委員会 2007
68	高野一ツ谷東遺跡			○		『高野一ツ谷東』高崎市教育委員会 1997
69	高野大岩Ⅱ遺跡			○		『高野大岩Ⅱ・Ⅲ遺跡』高野市遺跡調査会調査団 1986
70	高野大岩Ⅲ遺跡			○		
71	高野大岩遺跡			○		『高野市内六遺跡群蔵文化財発掘調査報告Ⅱ』高野市遺跡調査会調査団 1990
72	西島遺跡群			○		『西島遺跡群Ⅰ 藤巻遺跡』『西島遺跡群Ⅱ』『西島遺跡群Ⅲ』高崎市教育委員会 1983/85/86
73	西島相ノ沢遺跡			○	弥生：住居跡、堀溝、古墳：前～中住居跡、奈良：平安：住居跡	『西島相ノ沢遺跡』高崎市教育委員会 1990
74	西島諏訪遺跡			○	中世：溝	『西島諏訪遺跡』群馬県教育委員会 2012
75	新保八坂遺跡			○	奈良：平安：造路状遺構	『高野市内小規模埋蔵文化財発掘調査報告Ⅱ』高崎市教育委員会 1998
76	矢島町村西・畑原遺跡			○	縄文：中期住居跡、古墳：住居跡、奈良：平安：住居跡、中世：堀跡	『矢島町村西、畑原遺跡』高崎市教育委員会 1986
77	北毛庵遺跡			○	弥生：住居跡、堀溝基、古墳：住居跡、堀溝基	『北毛庵遺跡』高崎市教育委員会 1983
78	天田・川俣遺跡			○	奈良：平安：住居跡、堀、中世：堀	『天田・川俣遺跡』高崎市教育委員会 1985
79	天田遺跡Ⅱ			○	奈良：平安：住居跡、中世：堀跡	『天田遺跡Ⅱ』高崎市教育委員会 1985
80	村北・矢島前・村東遺跡			○	中世：塀跡	『村北、矢島前、村東遺跡』高崎市教育委員会 1985
81	山島・天神遺跡			○	縄文：前期住居跡、奈良：平安：竪立建物跡	『山島・天神遺跡』高崎市教育委員会 1983
82	天神久保遺跡			○	平安：住居跡	『天神久保遺跡』高崎市教育委員会 1985
83	方想寺遺跡			○	縄文：後期竪石住居、弥生：住居、古墳：住居	『方想寺遺跡』高崎市教育委員会 1985
84	新保町遺跡			○	弥生：住居跡、古墳前期：住居跡、平安：住居跡、中世：堀	『新保町遺跡』高崎市教育委員会 2006
85	新保遺跡		○	○	弥生：住居跡、堀溝基、古墳：住居跡、堀溝基、平安：集落ノ寺院	『新保遺跡Ⅰ』『新保遺跡Ⅱ』『新保遺跡Ⅲ』群馬県蔵文化財調査事業団 1986/88/88
86	新保田中村前遺跡		○	○	弥生：住居跡、堀溝基、古墳：住居跡、堀溝基、平安：住居跡	『新保田中村前遺跡Ⅰ』『新保田中村前遺跡Ⅱ』『新保田中村前遺跡Ⅲ』『新保田中村前遺跡Ⅳ』群馬県蔵文化財調査事業団 1990/92/90/94
87	新保田中・馬跡遺跡			○	古墳：溝・島	『新保田中・馬跡遺跡』高崎市教育委員会 2010
88	新沢遺跡			○	古墳前期：住居跡	『新保遺跡Ⅳ、新沢遺跡』群馬県蔵文化財調査事業団 1988
89	日高遺跡（高崎市）		○	○	弥生：堀溝基、古墳：集落住居跡、堀溝基、平安：住居跡	『日高遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』高崎市教育委員会 1979/80/81/82
90	藤呂遺跡			○		『藤呂遺跡』前橋市教育委員会 1987
91	川島柳原遺跡			○	平安末：造路	『川島柳原遺跡』前橋市教育委員会 2007

No	名称	存続年代	築・在城者名	遺構・遺物	備考
A	萩原城	15世紀	萩原地楽	堀、土塙、F11	復原城。
B	元鳥名城	15世紀	高名伊豆守	堀、土塙、F11、櫓小郭、板碑	昭和51・53年一部発掘調査。
C	矢鳥西城	15世紀	長舟重直守政実		
D	中島屋敷	15世紀	中島氏	櫓台、F11、堀、門、井戸	昭和61年発掘調査で発見。
E	深沢屋敷		深沢氏	堀、土塙、F11	長楽寺がある。
F	南茂屋敷		南茂氏	堀、土塙、井戸	
G	上新保北屋敷			小環濠遺跡×所	
H	白虎環濠遺構群		高茂氏、他	堀、F11	
I	上新保環濠遺構群		阿久沢氏	堀、土塙、F11	
J	深沢環濠遺構群		森幸氏	堀	
K	白虎大下環濠遺構群			2重堀3ヶ所	
L	蟹田屋敷			堀子、三重堀	昭和62年発掘調査。
M	山王屋敷			堀、土塙、F11	
N	反町屋敷		反町氏	堀、F11	
O	下新保環濠遺構群		反町氏 小島氏	環濠跡2ヶ所	
P	上大郎環濠遺構群	15世紀		堀敷跡3ヶ所	堀天神社の裏側に新保屋敷、南側に長井三河屋敷。
Q	天田屋敷		天田氏	堀、水路	水路を兼ねた四層堀。 昭和58年発掘調査。
R	村北屋敷			堀、櫓式列、井	昭和57年発掘調査により発見。
S	高舟屋敷	15世紀	高舟氏	2重堀、土塙	高橋神社社人。
T	元鳥名環濠遺構群		高名氏	板屋敷等	昭和53年一部発掘調査。
U	元鳥名内出	15世紀	阿久沢氏	堀、土塙、F11	付元に小環濠遺構がある。

**中世** 前橋台地の南部から南東部にかけての微高地上には、地元の有力氏族や外来の有力氏族によって城館が数多く造られる。また、環濠屋敷や環濠屋敷の集合である環濠遺跡群も萩原城（A）は、地侍である萩原地楽の16世紀の城館とされている。元鳥名城（B）は昭和53年に元鳥名遺跡で発掘調査が行われている。調査では本丸と推定される郭の堀跡や掘立柱建物跡・井戸等が確認され、遺物は内耳鍋、鉢、瀬戸・美濃の陶器を中心に出土しており、時期は15～16世紀に比定されている。矢鳥西城（C）は5つの郭と帯郭からなる複郭式の城址で、存在の記録はなく、矢鳥町村西・増殿遺跡の発掘調査で発見された。出土遺物は内耳鍋やすり鉢、青磁片等を出土しており、時期は15～16世紀に比定されている。この他にも天田Ⅱ遺跡では天田屋敷（Q）、村北・矢鳥前・村東遺跡（80）では村北屋敷（R）の一部が発掘調査で発見されている。

**近世** 天狗岩用水は現在の滝川を流路とし、江戸時代初期に総社城主秋元長朝によって、上滝付近の井野川合流点までの区間を開鑿された。これは天狗岩用水の北半にあたり、秋元氏によることから越中堀とも呼ばれる。また、南半は初代関東郡代の伊奈忠次によって開鑿されたものといわれ、代官堀と呼ばれている。

天明3年（1783）の浅間山の噴火で、鎌原土石なだれと呼ばれる泥流が発生し、泥流は吾妻川から利根川を流下して上野国を中心に川沿いの村々を呑み込み大きな被害を与えた。軽石や火山灰は浅間山の東南東方向に広範囲で降下した。この降下した軽石はAs-A軽石と呼ばれている。噴火や被害に関する記録は江戸時代後期ということもあって多く、さらに近年の発掘調査で記録されてなかった被害状況や復旧状況が明らかになる例も増加している。

### Ⅲ 調査の方針と経過

#### 1 調査範囲と基本方針

今回の調査は認定こども園建設に伴う施設の新築箇所が該当し、調査対象は1,830㎡である。グリッド座標については、都市計画道路新前橋駅川曲線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査で設定されている基点を使用し、国家座標（世界測地系、平面直角座標第Ⅸ系） $X=40,040,000\text{m}$ 、 $Y=70,430,000\text{m}$ を基に4mピッチの方眼を設定し、経線をX、緯線をYとして北西隅から番号を付与した。

調査方法は表土掘削・遺構確認・遺構掘下げ・遺構精査・測量及び写真撮影の手順で実施した。表土掘削には0.75㎡級バックホウを使用した。重機での表土掘削はAs-B軽石上面までとし、以下は人力による鋤鎌を用いて水田面まで除去し遺構確認を行った。図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行い、断面図についてはオルソフォトに変換して編集をおこなった。記録写真は35mmモノクロ・リバーサルフィルムカメラ、デジタルカメラの3種を用いて撮影を実施し、調査区全景撮影についてはラジコンヘリコプターでの撮影を実施した。

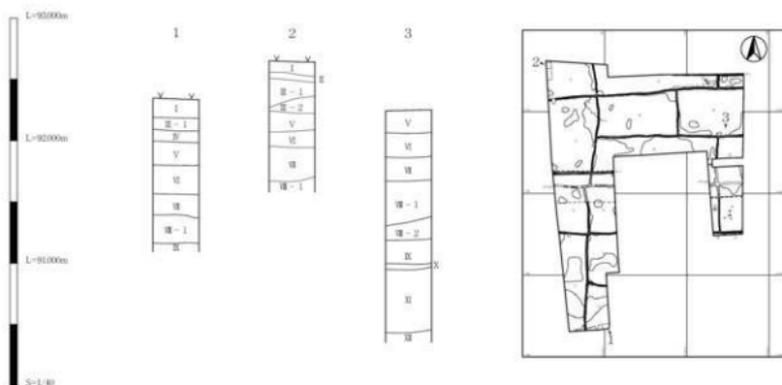
#### 2 調査経過

発掘調査は表土掘削を平成28年1月5日から8日まで実施した。9日から検出した畦畔や水田面の掘り下げを行い、順次調査を進めた。しかし、17日からの降雪により、18日翌朝には本遺跡周辺で積雪量が約20cmに達した。同日から除雪作業を開始し、20日に2度目の降雪にみまわれるも21日には除雪作業を終了。調査を再開したが、融雪による地下水位の上昇で調査面は湧水に覆われ、水中ポンプにて排水を行いながら作業を行った。23日にラジコンヘリコプターを用いて全景撮影を実施した。25日から調査区全体の平面実測及び断面実測を開始し27日に終了した。同日から埋め戻し及び撤収作業を開始し、28日に埋め戻し、29日に撤収作業が完了し、現地での発掘調査を終了した。その後、2月1日より出土遺物・図面・写真等の整理作業及び報告書作成を開始した。



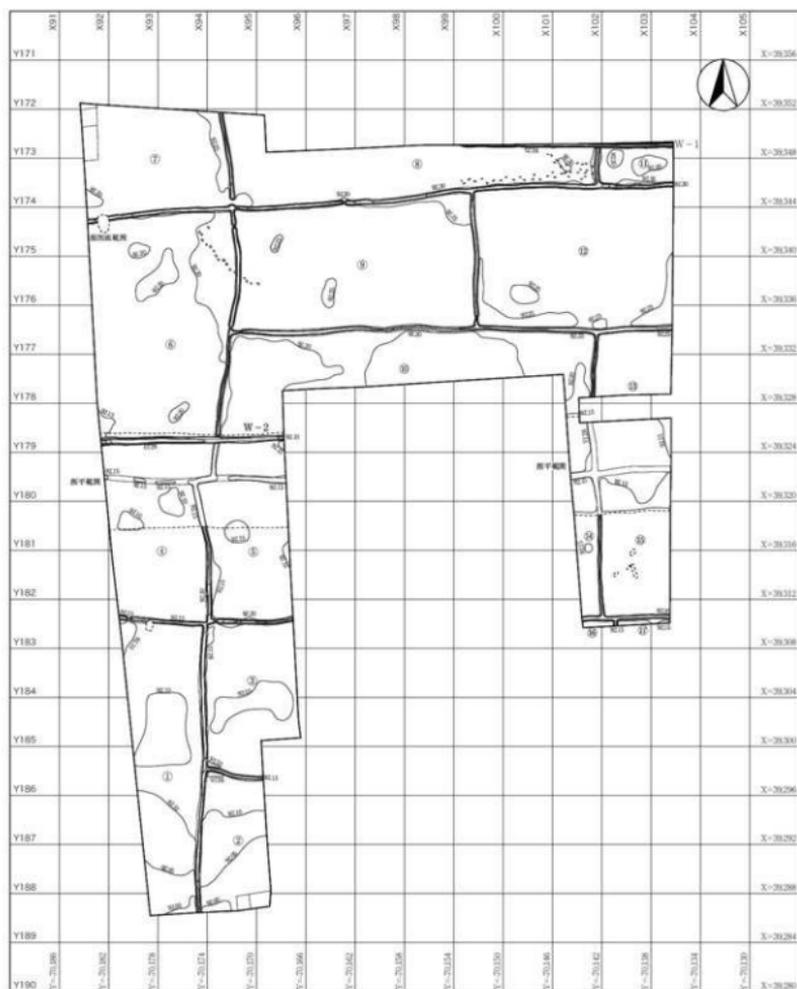
## IV 基本層序

基本層序は南西トレンチを1トレンチ、北西トレンチを2トレンチ、水田⑫内のトレンチを3トレンチとして、3箇所を観察を行った。以下に土層注記と図を示す。2トレンチの壁面では均一なAs-B軽石堆積層(IV層土)が確認できなかったが、Ⅲ-1層の下にはAs-B軽石混土の中にAs-B軽石をブロック状に含む層が確認されるため、この層をⅢ-2層とした。2トレンチ付近の水田⑥・⑦では、Ⅲ-1層の下に部分的であるが掘削痕が検出されていることから、Ⅲ-2層は中世以降の耕作面の可能性が考えられる。



- I 黒褐色土 (10YR3/1) 現在の耕作土。
- Ⅱ 褐灰色土 (10YR4/1) 締り有り、粘性やや強い、白色小粒を中量含む砂質土。
- Ⅲ-1 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) 締り有り、粘性有り、As-B軽石混土層。
- Ⅲ-2 黄灰色土 (2.5Y4/1) 締り有り、粘性有り、Ⅲ-1層にAs-B軽石をブロック状に含む。
- Ⅳ 褐灰色土 (10YR4/1) 締り弱い、粘性弱い、As-B軽石堆積層。
- V 黒褐色土 (10YR3/1) 締り有り、粘性強い、As-B下水田耕作土。
- Ⅵ 褐灰色土 (10YR4/1) 締り有り、粘性強い、白色軽石粒(Hr-PPカ)を少量含む粘質土。
- Ⅶ 褐灰色土 (10YR4/1) 締り有り、粘性強い、灰黄を少量含む粘質土。
- Ⅷ-1 灰白色土 (10YR7/1) 締り有り、粘性やや強い、灰黄褐色ブロックを含む粘質土。
- Ⅷ-2 灰白色土 (10YR7/1) Ⅷ-1に黄褐色粒を含まない。
- Ⅸ 褐灰色土 (10YR4/1) 締り有り、粘性有り、As-Cを少量含む砂質土。
- X 黒褐色土 (10YR2/1) 締り有り、粘性強い、粘質土。
- XI 灰白色土 (10YR7/1) 締り有り、粘性強い、粘質土。
- XII 緑灰色土 (10G5/1) 締り有り、粘性強い、粘質土主体で礫を含む。

第5図 基本層序



第6图 調査区全体图

## V 検出された遺構

### 1 遺跡の概要

川曲地蔵前遺跡 No. 4では、天仁元年（1108年）に起きた浅間山の噴火によって噴出した浅間B軽石（As-B軽石）に覆われた水田跡と、As-B軽石混土を掘り込む溝跡が2条検出された。

調査区の現況は水田3箇所をまたがり、北から南へ水田毎に段差が設けられ、南へ向って低くなっている。それに対応するように、調査区の北から北東はAs-B軽石混土層（Ⅲ層）及びAs-B軽石堆積層（Ⅳ層）の残存状況が良く、南へ向かって近年の耕作による削平の影響を受け、残存状況が悪くなっている。また、X=39.316～39.328 m間では現行水田の造成によってAs-B軽石下水田耕作土まで削平されているため、As-B軽石下水田の明瞭な検出はできなかった。

### 2 近世以降

#### 溝跡

##### W-1号溝跡（第8図、PL.5）

位置 X = 39.348 m、Y = -70.134 ~ -70.154 m 調査区北東縁辺に位置している。主軸方向 N - 89° - W  
規模 長さ(17.40 m) 上幅0.61 m 下幅0.14 m 深さ0.28 m 形状等 西から東へ走向し、断面は台形状を呈する。重複 As-B軽石下水田と重複している。新旧関係は、As-B軽石下水田→本遺構である。出土遺物 須恵器、陶磁器、鉄製品が少数出土、いずれも小片のため図示には至らず。時期 As-B軽石混土（Ⅲ-1層）を掘り込み、出土遺物に近世以降の陶磁器片が含まれることから、近世以降と考えられる。

##### W-2号溝跡（第7図）

位置 X = 39.324 m、Y = -70.166 ~ -70.186 m 調査区西部中央に位置している。主軸方向 N - 89° - W  
規模 長さ(17.40 m) 上幅(50.5) m 下幅0.19 m 深さ0.28 m 形状等 西から東へ走向し、断面は台形状を呈する。重複 As-B軽石下水田と重複している。新旧関係は、As-B軽石下水田→本遺構である。なお、溝上部は現行水田からの削平を受けている。出土遺物 陶磁器を僅かに出土、いずれも小片のため図示には至らず。時期 出土遺物に近世以降の陶磁器片が含まれることから、近世以降と考えられる。

### 3 平安時代末期

#### As-B軽石下水田（第7～9図、PL.1～5）

被覆層と残存状況 As-B軽石堆積層によって水田面が3～12 cmの厚さで直接覆われている。水田面直上の青灰色細粒軽石は1 mm前後の厚さで水田6～13では全面的に、水田1～5・14～17では鉄分沈着層が多く部分的に確認されている。軽石層上位にあたる灰赤色火山灰層及びAs-Kk層は確認されていない。調査区北西ではB混土層（Ⅲ-2）上面より半月状の掘り込みをもつ鋤状工具の掘削痕が確認されており、畦畔の一部を削平している。

水田城の地形 水田面は北から南へと緩やかに傾斜し、滝川右岸の自然堤防縁辺に近いためか東から西へ緩やかな傾斜が認められる。比高差は北側東西で0.05 m、南側東西で0 m、東側南北で0.15 m、西側東西で0.25 m、北西から南東へ0.10 mとなっている。

畦畔の走行方向と区画 調査区内を横断、縦断する主な畦畔は南北11条、東西13条、水田面は17面を検出した。畦畔の走向軸は、東西方向はN - 90° - Wのほぼ直線的で、南北方向はN - 1° - 3° - Wの範囲で指向し若干の蛇行がみられる。区画の交点は十字で2箇所、クランクで3箇所、T字6箇所て接続する。完全な区画で残存する水田は⑨の1箇所、南北方向（縦）9.76 m、東西方向（横）19.45 mを測り、縦横比はほぼ1 : 2である。また、

一部調査区外であるが1区画として想定することできる水田⑩は、東西方向11.65m、東西方向30.60mを測り、縦横比は1:3である。水田⑤と⑩は番号を個々に割り振ったが東西端部の距離が水田⑩と同規模になるため同一区画の可能性が考えられる。

**耕作土** 黒褐色の粘質土（基本層序V層）を水田耕作土とし、層厚は18～20cmで大きな差異はなく均一に堆積している。この耕作土の下には古段階の条里型水田を被覆するような洪水堆積層は検出されなかった。

**取配水の方法** 9箇所の水口を確認している。配水を行う溝は確認されなかった。なお、水口だけでは水田全域を配水するのは困難であり、水田面と畦畔の高低差を相対的にみると、高い順に北東≧北西>南東≧南西なり、畦畔の断面は高い水田面から高低差3～5cmをもって緩やかな勾配で畦畔天部に上り、天部から高低差5～10cmをもって低い水田へ急落するため、北東から南西方向に向かってオーバーフローさせて配水していたと考えられる。

**足跡** 調査区はは全域で馬と推定できる歩行痕を検出した。歩行痕が確認できるものでひょうたん型をA群、楕円型をB群をとし、一部を記録した。A群の進行方向は反時計廻りに旋回後、西へ向かって指向する。歩幅は87～129cm、平均104.7cmを計った。B群の進行方向は北西を指向し、緩やかな弧を描くように足跡を残す。歩幅は69～89cm、平均80.7cmを計った。いずれも、足跡底面には青灰色細粒軽石が確認できるため、As-B軽石降下前につけられたものと考えられる。

**出土遺物** 水田⑩の検出時に土師器の破片を1点出土したが小片のため図示に至らず。

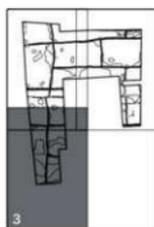
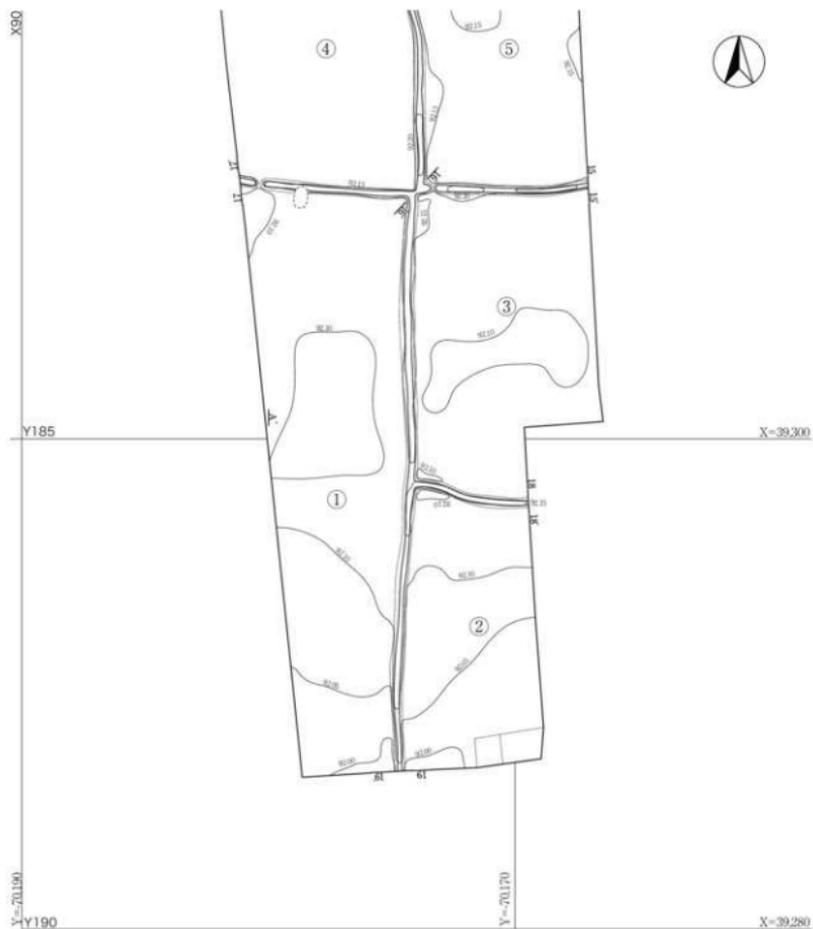
第2表 As-B軽石下水田計測表

田面	グリッド	面積 (㎡)	東西 (m)	南北 (m)	標高 (m)					備考
					NW	NE	中央	SW	SE	
1	X = 39.284 ~ 39.312 Y = 70.174 ~ 70.182	(122.15)	(6.89)	(24.20)	-	92.10	-	-	91.99	東畦畔に水口。
2	X = 39.284 ~ 39.300 Y = 70.166 ~ 70.178	(56.34)	(5.53)	(11.78)	92.10	-	-	-	-	
3	X = 39.300 ~ 39.312 Y = 70.166 ~ 70.178	(79.45)	(7.83)	(12.58)	-	92.14	-	-	92.14	
4	X = 39.308 ~ 39.324 Y = 70.170 ~ 70.186	(81.56)	(8.25)	(11.27)	-	(92.14)	-	-	92.14	南畦畔に水口。
5	X = 39.308 ~ 39.324 Y = 70.166 ~ 70.174	(74.03)	(6.84)	(11.06)	(92.13)	-	-	92.14	-	
6	X = 39.320 ~ 39.344 Y = 70.170 ~ 70.186	(225.06)	(11.36)	(21.48)	-	92.22	-	92.16	-	東畦畔2箇所へ水口。
7	X = 39.340 ~ 39.356 Y = 70.170 ~ 70.186	(96.41)	(11.70)	(8.81)	-	-	-	-	92.25	東畦畔に水口。
8	X = 39.344 ~ 39.352 Y = 70.142 ~ 70.174	(121.37)	30.02	(7.63)	-	-	-	92.24	92.29	南畦畔に水口。
9	X = 39.322 ~ 39.348 Y = 70.150 ~ 70.174	189.85	19.45	9.76	92.21	92.25	92.25	92.22	92.22	南・東畦畔2箇所へ水口。
10	X = 39.320 ~ 39.336 Y = 70.142 ~ 70.174	(168.05)	30.06	11.65	92.19	92.20	92.20	(92.13)	(92.15)	
11	X = 39.344 ~ 39.352 Y = 70.134 ~ 70.146	(19.79)	(6.10)	(3.34)	-	-	-	92.27	-	南畦畔に水口。
12	X = 39.322 ~ 39.348 Y = 70.134 ~ 70.154	(176.30)	(18.85)	(11.38)	92.27	-	-	92.23	-	
13	X = 39.320 ~ 39.336 Y = 70.134 ~ 70.146	(54.70)	(6.14)	(10.99)	92.21	-	-	(92.16)	-	
14	X = 39.308 ~ 39.324 Y = 70.142 ~ 70.146	(19.19)	(2.19)	(11.17)	-	(92.14)	-	-	92.15	
15	X = 39.308 ~ 39.324 Y = 70.134 ~ 70.146	(64.15)	(4.75)	11.61	(92.15)	-	-	92.15	-	
16	X = 37.104 ~ 37.112 Y = 70.138 ~ 70.146	(1.18)	(2.52)	(0.52)	-	92.14	-	-	-	
17	X = 37.072 ~ 37.104 Y = 70.142 ~ 70.142	(1.63)	(4.21)	(0.54)	92.13	-	-	-	-	

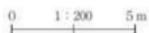


第7図 As-B 軽石下水田全体図(1)

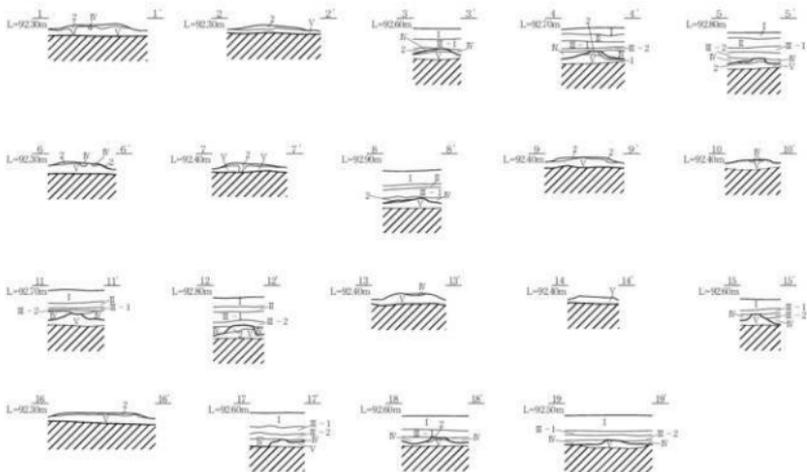




第9図 As-B 軽石下水田全体図 (3)



### 畦畔1～19



#### 畦畔1～19

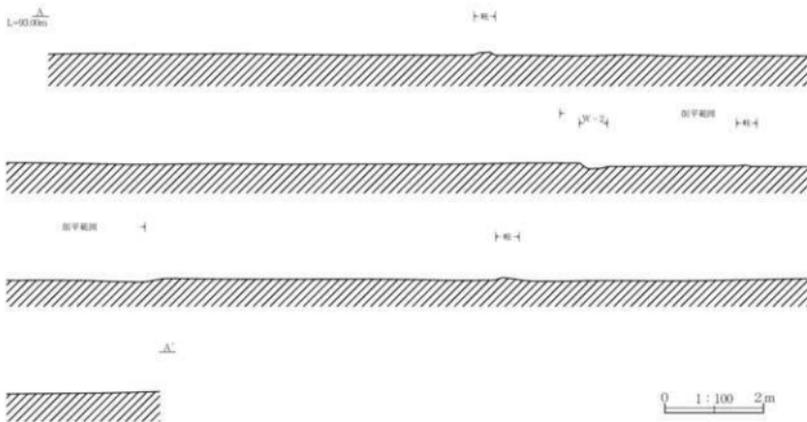
- 1 暗褐色土 (10723-0) 粘まり有、粘性及中粒の砂質土、鉄分沈着層。
- 2 灰褐色土 (10723-1) 粘まり有、粘性强、灰白色砂土少量含み、砂質土、鉄分沈着がみられる。

### W-1・2

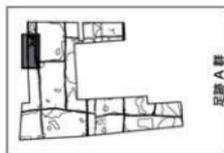
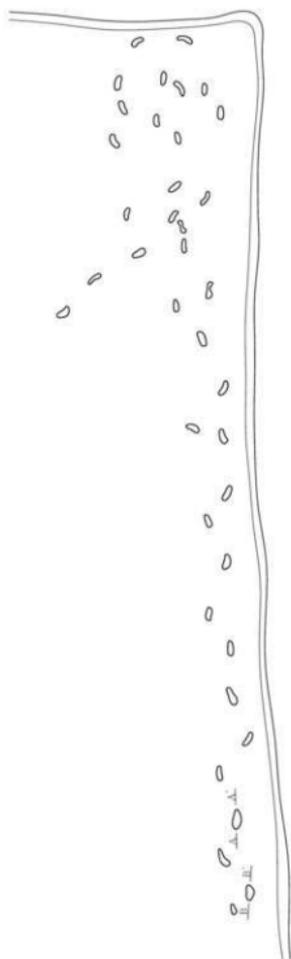


- 1 暗褐色土 (10724-1) 粘り有、粘性强、Asが軽石を少量含む砂質土、鉄分沈着がみられる。

### As-B 下水田横断面

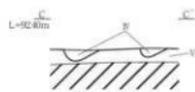
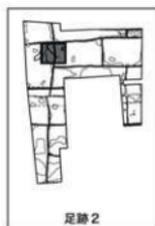
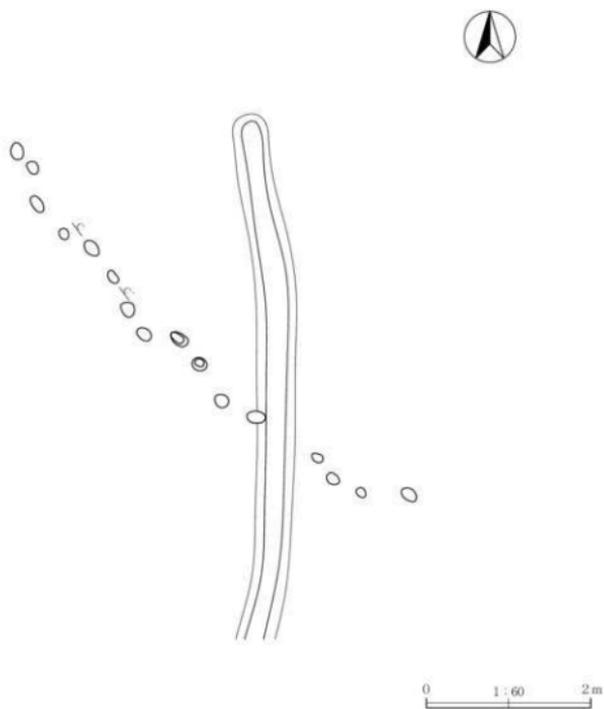


第10図 畦畔1～19、W-1・2セクション図、As-B下水田横断面



足跡A群  
 1. 掘削地上 (DXY表4頁) 跡本写真、掘削中撮影、資料添付図録に各写真と同等。

第11図 足跡A群



第12图 足跡B群

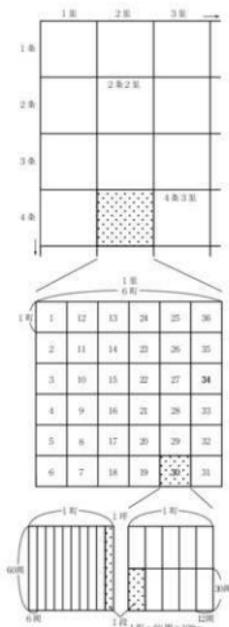
## VI まとめ

本遺跡周辺では関越自動車道の建設に伴う発掘調査を始めとし、新前橋駅川曲線の道路改良事業や大型店舗の建設に伴う発掘調査が広域にわたって行われており、主に1108年に降下したAs-B軽石に埋没した水田跡（以降As-B軽石下水田）が検出されている。このAs-B軽石下水田は12世紀初頭まで遡る条里型地割の研究を可能とし、現在も進められている。ここでは、条里制について解説した上で、周辺遺跡の調査事例を踏まえて検討し、発掘成果のまとめとしたい。

### 条里制について

古代においては1町（約109m）四方を単位とする方格地割が実施されており、それを条里地割と呼んでいる。基本となる一辺の長さを1町とする正方形の範囲を坪と呼び、これを縦横に6個ずつ並べた6町（約654m）四方の区画を里と呼ぶ。この里の東西方向の並びを条、南北方向の並びを里とそれぞれ呼んでいる。そして一坪のなかは10分割されて、1区画を段とした。10分割の方法は、細長い区画を10列並べる「長地型」と、まず半分にしてから5分割する「半折型」がある。（第13図）この条里地割に基づいて耕地開拓が行われたと考えられており、条と里と坪を使い「何条何里何坪」と言えば、住所の様に広い地域でも正確に位置を表現することができる。これを条里呼称法という。

条里制は班田取授法に伴うと考えられていたが、近年の研究によれば、条里地割とそれに結合した土地表示システムである条里呼称法が導入・整備されたのは、三世一身法（養老7年、723年）や惣田永世私財法（天平15年、743年）等により、私領としての惣田が増したことに対応するためのことと考えられ、8世紀の中頃とされている<sup>(1)</sup>。

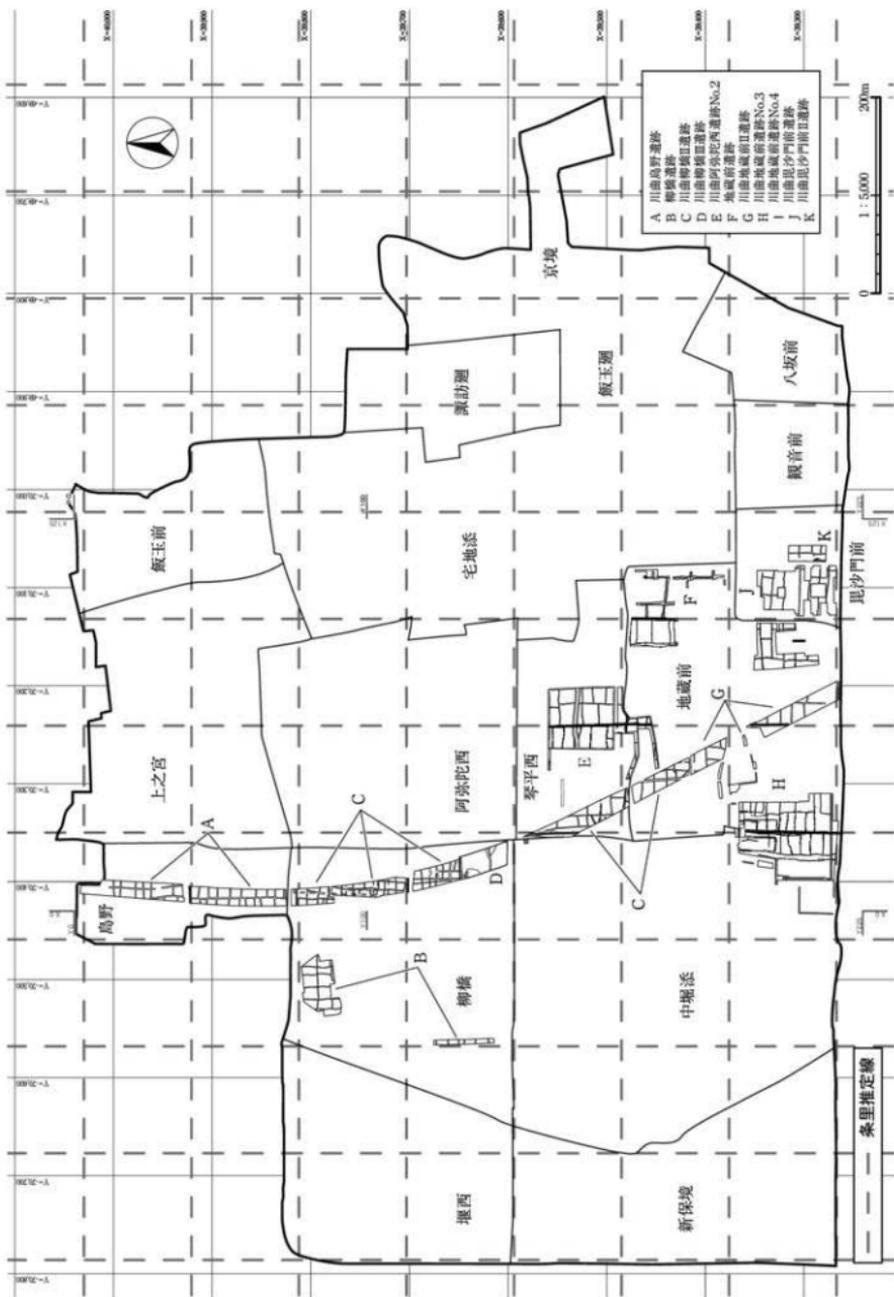


第13図 条里模式図

### 坪区画について

本遺跡は前橋市と高崎市の市境に隣接し、高崎市方面では昭和初期に行われた圃場整備で旧来の景観は一掃され、前橋市方面は近年の開発で現況条里が著しく減少していることから、戦後の米軍写真（第16図）と明治18年作製の迅速測図（第15図）を参考にして景観を見ていきたい。

居住域は澗川兩岸の自然堤防や微高地上に営まれ、それを取り巻くように畑や水田等の耕作地が広がっている。澗川右岸の現況条里では、東西方向に7条確認することができるが、南北方向は箱田堰を取水とする用水や澗川の自然堤防に規制されるため一筋に伸びるようなラインは確認できない。現況条里と遺跡の位置関係を把握するため、座標を持った都市計画図から小字境のトレースを行い、調査された遺跡の全体図を座標に配置した。



第14図 川曲周辺遺跡と字地の配置図

また、川曲高野遺跡で検出されている東西方向に走向する大畦畔と川曲地藏前Ⅱ遺跡で検出されている南北方向に走向する大畦畔を基準として109m間隔の条里メッシュを割り当てたのが第14図である。

小字については、明治22年の町村制施行によって群馬郡東村に合併した際に川曲町の境界が変更されており、それに伴い字地の再編が行われている。『上野国郡村誌』によれば、川曲村の字地は宅地添、諏訪廻、飯玉廻、阿弥陀西、琴平西、毘沙門前、観音前、八坂前、地藏前、上之宮、飯玉前、伊勢、村北、薬師廻、京境とあり、群馬郡東村全図と比較すると、稲荷新田村から柳橋、堰西、中堀添、新保境と島野村の飛地である川曲が編入し、川曲村から伊勢、村北、薬師廻が稲荷新田村へ編入されて、現在の配置となった。米軍写真に小字の配置を加筆したのが第16図である。

発掘調査の成果で判明している大畦畔は東西方向5条、南北方向3条を確認することができる。大畦畔と字地境は概ね一致しており、地藏前では方形地割を4面確認できる。地藏前から上之宮の西端は川曲村の西端は村境となっているため、これを基準として、西側の島野、柳橋、中堀添、新保境、堰西が属する現況条里から22面の方角地割が認められる。東側の上之宮、阿弥陀西、琴平西、地藏前が属する現況条里は東西方向一致するが、南北方向は滝川の方に併せて展開し、地藏前では地表とのズレが半町程度生じている。地藏前の南半に並ぶ、毘沙門前、観音前は方形地割として確認できる。川曲村の南端以南は滝川の流路に合せ、条里地割は東へ広がりを増して行く。

#### 坪内区画について

地藏前は北半2町半、南半2町の方形区画で構成されており、本遺跡は南半東の区画に属する。第15図は迅速測図に地藏前で調査されている遺跡の全体図を配置したものである。

迅速測図の地表条里では東側道路沿いの48間×60間の区画が本遺跡と重なり、西側の川曲地藏前Ⅱ遺跡の残り12間が隣接する西側の坪区画と合わせ72間×30間の区画を2組形成している。48間×60間の区画の中心と本遺跡の水田④・⑤・⑥・⑦の畦畔の交点はほぼ一致し、交点を中心に十字に分割すると24間×30間の区画に4分することができる。24間×30間は半折型の並列の2段分の区画に相当する。川曲地藏前Ⅱ遺跡の大畦畔に沿った12間×60間の区画を半折型の直列の2段で配置すると半折型の1坪となる。この区画は6間の倍数を基準とした区画で細分化されているが、坪区画を東西南北に一本で延びる畦畔は少ないため、長地型であることは考えにくい。半折型で区画を細分化して利用していたと考えられる。



第15図 迅速測図(S=1:5000)



第16図 戦後の空中写真（国土地理院所有 米軍撮影 USA-R408-No1-81 上が北）

## 足跡について

本遺跡周辺では人や牛馬と推定される足跡が数多く検出されており、川曲柳橋Ⅲ遺跡では馬の水飲み場の可能性がある池跡が確認されている。

本遺跡でも調査区全域でAs-B 軽石下から幅8～13cmの楕円形やひょうたん型の足跡を検出しており、足跡の検討を行った。楕円形のB群は、外形が蹄の形に近く、大小が交互に規則性もって列をなすため行跡として認められることから蹄跡として確認を行った。断面は同一方向に深くめり込み、軟弱な土壌に残る蹄跡に類似する。歩幅は前肢が69～89cm、平均80.7cm、後肢が69～88cm、平均79.2cmを計り、前肢と後肢の歩幅は比較的近似している。足跡と歩幅から中型馬の常歩時に残された行跡と考えられる。

ひょうたん型のA群は当初人の足跡として確認を行ったが、この足跡の土踏まは認められず内側寄りに沈み込み、爪先部分は指先というよりは尖蹄部跡に近い形状をしている。行跡は規則的に並んでいるが、歩幅は84～129cmを計り、旋回部は短く、旋回から直進へ移行する区間では長く、直進区間に入ると徐々に短くなる様子から、移動速度の緩急があったと思われる。前肢と後肢の境界は曖昧だが、前肢の後に後肢の足跡が重なり、ひょうたん型の形状になったと考えられる。(第17・18図)歩幅が一定でないため体格までは判定できないが、足跡の残存状況から馬の蹄跡であると推定される。

## おわりに

今回は周辺の調査事例と併せて坪内区画を検討することができた。半折型を基準として平安時代後半では小区画に分けられて営まれており、中世以降も坪区画は踏襲され、現況桑里に見ることができる。今後の開発により調査事例が増加することによって、水田研究の更なる進展が期待される。最後に調査に従事した作業員の方々、調査進行にご協力頂いたすべての方に感謝の意を記し結びとしたい。

## 註

- (1) 金田章裕 1985 『秦里と村落の歴史地理学的研究』 大明堂
- (2) 萩原 進敏彦 1986 『上野田郡村誌』 5 群馬郡Ⅱ
- (3) 井上昌英・坂口 一 2004 『古墳時代馬の体格推定 - 群馬県子持村・白井遺跡群出土のウマの蹄跡からの分析 -』 『研究紀要』 22 財団法人群馬県歴史文化財事業団



第17図 常歩の行跡



馬場 悠男 1992

第18図 ひょうたん型の足跡が出来る過程の推定

## 参考文献

### 論文等

- A.Gouhaux and G.Barrier 1892 『The Exterior of the Horse』
- 東村誌編纂委員会 1959 『東村村誌』
- 新井 仁 2001 『群馬県における平安時代の水田開発について -前橋台地南部を中心とした試論-』『研究紀要』19 財団法人群馬県埋蔵文化財事業団
- 新井 仁 2006 『桑里地前導入後の水田と集落の様相 -前橋台地南部地域を中心として-』『研究紀要』26 財団法人群馬県埋蔵文化財事業団
- 岡田隆夫 1991 『特論 上野国の桑里制』『群馬県史』通史編2 群馬県史編さん委員会
- 群馬県教育委員会 1988 『群馬県の中世城郭』
- 公益財団法人群馬県埋蔵文化財事業団編 2013 『自然災害と考古学 -災害・復興をくまの道跡から探る』 上毛新聞社
- 小島敦子 2015 『群馬県の桑里』『関東桑里の研究』関東桑里研究会 東京堂出版
- 金田卓郎 2015 『桑里 -桑里の機軸・形態・変遷-』『古代の都市と桑里』桑里制・古代都市研究会 吉川弘文館
- 関口功一 2011 『上毛野の古代農業景観』岩田書院
- 馬場悠男 1992 『インドネシアに化石人骨を捜して』『東南アジア考古学会会報 第12号 1992年5月』東南アジア考古学会
- 発掘調査報告書
- 前橋市教育委員会 1988 『地蔵前道跡』
- 前橋市教育委員会 1988 『川曲毘沙門前道跡』
- 前橋市教育委員会 1994 『柳橋道跡』
- 前橋市教育委員会 2005 『川曲島野道跡』
- 前橋市教育委員会 2005 『川曲毘沙門前道跡』
- 前橋市教育委員会 2005 『川曲地蔵前道跡』
- 前橋市教育委員会 2005 『川曲柳橋道Ⅱ跡』
- 前橋市教育委員会 2006 『川曲柳橋道Ⅲ跡』
- 前橋市教育委員会 2013 『川曲阿弥陀西道跡 No. 2』
- 前橋市教育委員会 2015 『川曲地蔵前道跡 No. 3』
- 高崎市教育委員会 1981 『日高道跡(Ⅲ)』
- 高崎市教育委員会 1982 『日高道跡(Ⅳ)』
- 高崎市教育委員会 1986 『京川作道跡』
- 高崎市教育委員会 2007 『京川作道Ⅱ道跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993 『白井大宮道跡』
- 建設省 群馬県教育委員会 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1997 『白井道跡群』古墳時代編
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009 『白井北中道道跡(Ⅰ)』弥生時代以降編

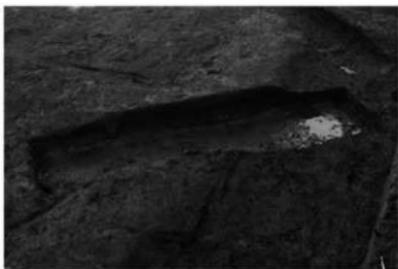
# 写 真 图 版



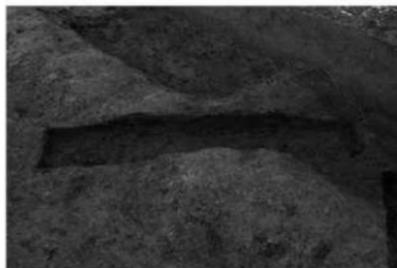
川曲地藏前道路NO.4から榛名山を望む



表土掘削（西から）



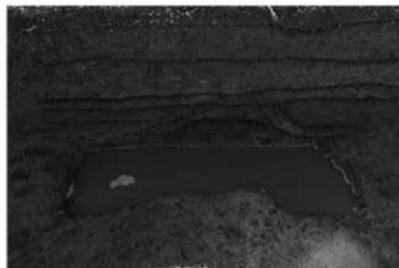
畦畔セクション1（北西から）



畦畔セクション2（北西から）



畦畔セクション3（西から）



畦畔セクション4 (北から)



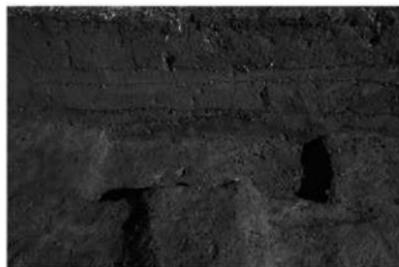
畦畔セクション5 (西から)



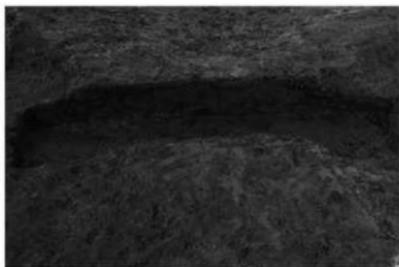
畦畔セクション6 (北西から)



畦畔セクション7 (西から)



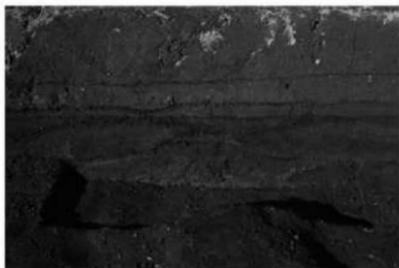
畦畔セクション8 (西から)



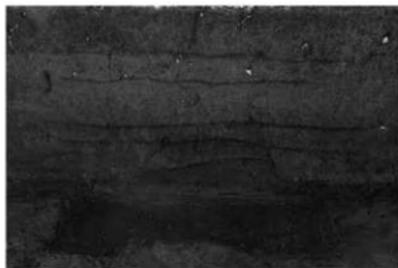
畦畔セクション9 (東から)



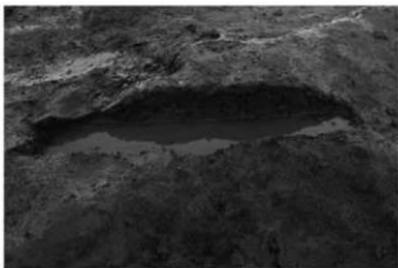
畦畔セクション10 (西から)



畦畔セクション11 (東から)



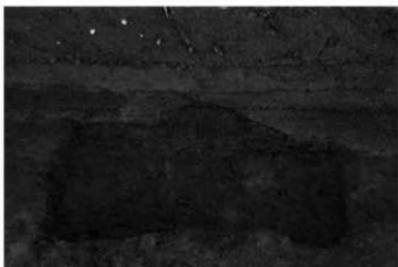
畦畔セクション12 (東から)



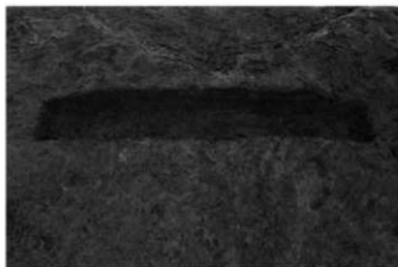
畦畔セクション13 (南西から)



畦畔セクション14 (北西から)



畦畔セクション15 (西から)



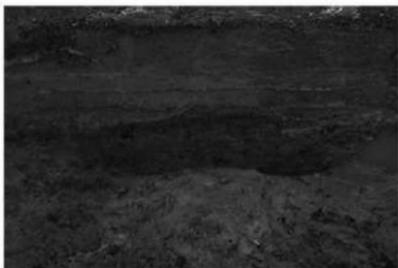
畦畔セクション16 (西から)



畦畔セクション17 (東から)



畦畔セクション18 (西から)



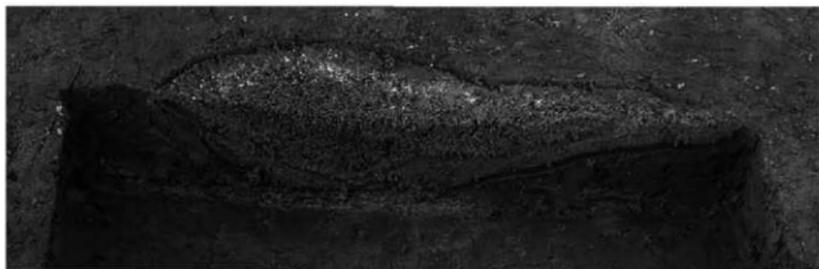
畦畔セクション19 (北から)



足跡A群 遠景 (東から)



足跡A群 近景 (東から)



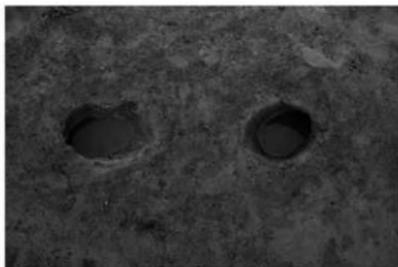
足跡A群 Aセクション (南西から)



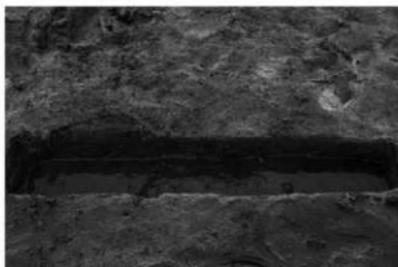
足跡A群 Bセクション (南西から)



足跡B群 遠景 (南東から)



足跡B群 近景 (南西から)



足跡B群 Cセクション (南西から)



W-1 全景 (東から)



W-1セクション (西から)



作業風景 (足跡A群検出)



基本層序1 (北から)



基本層序2 (東から)



基本層序3 (南から)



作業風景 (水田面8・10)

## 報告書抄録

カタカナ	カワマガリジゾウマエイセキナンバー4
書名	川曲地蔵前遺跡No.4
副書名	認定こども園建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	-
シリーズ名	-
シリーズ番号	-
編著者名	藤坂和延・岡野 茂
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371-0031 群馬県前橋市下小出町1丁目15番地3
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町3丁目11番地4
発行年月日	2016年6月30日

フリガナ	フリガナ	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
カワマガリジゾウマエイセキナンバー4 川曲地蔵前遺跡 No.4	カワマガリジゾウマエイセキナンバー4 前橋市川曲町 字地蔵前529-1ほか	10201	27A219	36° 20'55	139° 3' 17	2016/10/5 ~ 2016/12/9	1,830㎡	学校建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
カワマガリジゾウマエイセキナンバー4 川曲地蔵前遺跡 No.4	生産 その他	平安時代  近世	A&B軽石下水田  溝 2条	土師器  土師器 須恵器 陶磁器	

### 川曲地蔵前遺跡No.4

認定こども園建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2016年6月20日 印刷

2016年6月30日 発行

発行 前橋市教育委員会事務局文化財保護課

〒371-0853 群馬県前橋市総社町3丁目11番地4

TEL. 027-280-6511

編集 技研コンサル株式会社

印刷 朝日印刷工業株式会社